

平成 21 年 6 月 8 日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18580035
 研究課題名（和文） 近代数寄空間の成立要因に関する研究
 —日本の近代庭園にみる煎茶的文化とその地域性
 研究課題名（英文） A study on factor of forming process of SUKI-KUKAN, in modern
 —Relation between culture of SENCHA or its regional character and modern
 garden in Japan
 研究代表者
 尼崎 博正（AMASAKI HIROMASA）
 京都造形芸術大学・芸術学部・教授
 研究者番号：50141502

研究成果の概要：

東北から九州にかけて、煎茶文化の影響をうけた庭園と建築の事例を確認し、それらに見られる意匠の特徴と、近代の庭園を特徴づけるいくつかの要因との関係を見出した。煎茶文化が、明治から大正、昭和戦前期にかけて、当時の文化人、あるいは数寄者と呼ばれる人たちに深く浸透し、庭園や建築の意匠に大きな影響を及ぼしていたことを明らかにした。また、煎茶文化が根付いた事情には、それぞれの地域的個性があり、その個性が庭園文化の地域性にもつながっている可能性を確認した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,500,000	0	1,500,000
2007年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	570,000	3,970,000

研究分野：農学

科研費の分科・細目：農学・園芸学・造園学

キーワード：造園・庭園・近代・数寄空間・近代数寄屋・煎茶・和風・文人

1. 研究開始当初の背景

従来、庭園の意匠を考察するにあたっては茶の湯、即ち抹茶文化との関係で語られる事が常であった。しかし、幕末から昭和戦前期にかけての時期は、煎茶文化が興隆した時期であり、その革新性は当時の文化人たちに深く受け入れられたはずである。一方この時期は近代庭園のスタイルが確立された時期にもあたり、煎茶文化と近代庭園の成立には何らかの関係性が見出せる可能性があった。

近代庭園に関する研究についてはすでに全国の個別的な事例の研究に関する多くの

蓄積がある。それらの総括的に考察する必要があり、近代庭園の地域的特徴が成立する要因を解明するに際し、煎茶文化の伝播と影響を採りあげる試みはこれまで未着手であった。

2. 研究の目的

(1) 数寄者を代表とする文化人たちが、趣味的な行為を行うために造営した、庭園と建築からなる場を数寄空間と定義し、近代における数寄空間の成立過程における煎茶文化の影響を実証的に明らかにする。

(2) これまでの庭園史の研究においては積極的に評価されることのなかった煎茶文化の影響を時代の志向として積極的に評価し、煎茶文化が伝播し浸透した事情と、その影響を受けた庭園文化の地域性の関係を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 幕末から明治期にかけて全国で盛行する煎茶会に関する資料である煎茶図録および煎茶書を、史料としての妥当性を検証、それらを系統的に整理・分析し、煎茶の場としてしつらえられた庭園と建築の空間的特質とそこに展開した意匠的特徴を明らかにする。

(2) 近代に成立した各地の庭園・建築内で行われたさまざまな文化的行為のうち、特に煎茶文化に関わる事象を抽出し、そこで庭園や建築がどのような機能を果たしていたのかを考察することによって、近代庭園の意匠に反映された煎茶文化の影響とその地域による差異を解明し、近代の数寄空間が成立した要因のなかで、特に煎茶文化の影響について、地域性を踏まえながら考察する。

(3) 近代に成立した庭園を、日本における煎茶文化の伝播ルート、あるいは煎茶文化が隆盛した地域として、京都・大阪を中心とした関西地域、名古屋を中心とした東海地域、九州地域、瀬戸内海沿岸地域、北陸地域、その他の地域に分類し、それらの庭園が成立した背景や、そこで行われた様々な文化的行為のうち、特に煎茶に関した事柄を文献等によって明らかにした。それとあわせて遺構の実地調査を行い、それぞれを復元的に考察することにより、近代庭園の意匠的特徴にみられる地域性について考察する。

4. 研究成果

(1) 煎茶図録を収集し、その史料性を検討しリスト化した。嘉永5年(1852)の「茗醺品目」以降、大正末年までの間に上梓された煎茶図録74種類について、それぞれの所蔵先を明確にし、主要な図録に関しては購入、あるいはコピーを入手した。煎茶図録の共通した特徴として、煎茶会で披露された道具類や展覧された美術品のほか、座の構成や室礼、周辺環境などが明らかになる図が添付されていることから、煎茶の場を復元考察する上で、きわめて貴重かつ有効な史料であることを示した。

(2) 日本の近代に成立した数寄空間について、既往の研究および調査報告書等を調査し、所在地の立地条件や地理的・歴史的特徴また、造営にかかわった作庭者や大工、そこで行われた文化的行為などについて整理・分析した。また、全国に存在する近代の数寄空間を、明らかに煎茶のためにつくられたもの、あるいは

煎茶会が行われるなどして煎茶文化との関わりが深い庭と建築、など、煎茶文化との関わり具合について考察し、それぞれを分類・整理した。これらの結果を日本地図上に整理し、煎茶文化の浸透度合の地域性について明らかにした。

(3) 日本における煎茶文化の伝播ルートとして九州・瀬戸内・近畿、関東・東海、北陸・東北のルートを想定し、それらの地域に現存する近代庭園について現地調査を行った。現地調査では、関連史料の収集と聞き取り、および写真撮影等を行い、それぞれの数寄空間の特徴、煎茶文化とのかかわりについて明らかにした。

調査し記録を作成した数寄空間は以下の通りである。

①九州地域

唐津 高取家
飯塚 麻生家
熊本 続家(釣耕園及び叢桂園)
柳川 旧戸島家
御花
長崎 史跡料亭「花月」 庭園/建築

②中国地域

尾道 島居家
萩 指月城跡(花江茶亭、梨羽家茶室)
湯川家
菊屋家
東光寺
松陰神社(花月楼ほか)

③四国地域

大洲 臥龍山荘
新居浜 廣瀬邸

④近畿地域

和歌山 郭邸
京都 東山大茶会での諸施設
何有荘
長浜 安藤家
柴田家
成田家
赤穂 田淵家
寺田家

⑤北陸地域

武生 芹川家
辻家
金沢 旧寺島蔵人邸
城南荘

⑥東海地域

半田 中埜家
辻家
津島 三養荘
長珍酒造
浅井家
伊勢屋茶舗
宝泉寺

⑦関東地域

東京 旧岩崎邸

- 殿ヶ谷戸公園
旧渋沢邸
神奈川 旧松尾家
⑧東北地域
山形 細谷家
海老名家
柏倉家
鈴木家

また、今回の調査で新たに発掘し、翻刻等の整理を行った史料は以下の通りである。

- ①和歌山郭家道具資料
- ②長浜歴史資料館に残る道具資料
- ③赤穂田淵家の道具資料
- ④山形細谷家の道具資料
- ⑤細谷家煎茶図録
- ⑥江馬細香『湘夢詩草』

また、今回の研究において、近代の数寄空間の成立と意匠の特徴を煎茶文化との関係で論じるに際し、重要人物として採り上げ、その動向を考察した人物は以下の通りである。

- ①頼山陽から頼三木三郎まで
- ②富岡鉄斎
- ③梁川星巖
- ④釧雲泉
- ⑤田能村竹田
- ⑥田能村直入
- ⑦江馬蘭斎と細香
- ⑧小原鉄心

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 16 件)

- ① 尼崎博正、五感を味わう庭—何有荘、『庭園学講座 15 源氏物語と庭園』、pp.107-111、2008、査読なし
- ② 尼崎博正、源氏物語と庭園、『庭園学講座 15 源氏物語と庭園』、pp.1-6、2008、査読なし
- ③ 矢ヶ崎善太郎、何有荘の建築、『庭園学講座 15 源氏物語と庭園』、pp.112-118、2008、査読なし
- ④ 小川後楽、煎茶の庭—その希求する源的世界、『庭園学講座 14 京町家の庭』 pp.38-51、2007、査読なし、
- ⑤ 尼崎博正、日本庭園の技術伝承、『日本造園学会誌ランドスケープ研究、71 巻第 2 号』、pp.81-86、2007、査読有り
- ⑥ 尼崎博正、武者小路千家の露地—伝統と革新の垣塙、『庭園学講座 14 京町家の庭』 pp.81-86、2007、査読なし
- ⑦ 尼崎博正、町家の庭と市中の山居、『庭園学講座 14 京町家の庭』 pp.1-9、2007、

査読なし

- ⑧ 小川後楽、一期一会の煎茶器、『陶説』、647 号、pp.18-20、2007、査読なし
- ⑨ 矢ヶ崎善太郎、先覚者の植治の恩人・山縣有朋と伊集院兼常—京都ではじまった近代庭園、『美術フォーラム』、第 15 号、pp.72-75、2007、査読有り
- ⑩ 矢ヶ崎善太郎、文人画家・田能村直入の建築活動について、『野村美術館研究紀要』、16 号、pp.101-106、2007、査読あり
- ⑪ 尼崎博正、近江の庭園と風景、『庭園学講座 13 名勝と文化的景観』、pp.1-11、2006、査読なし
- ⑫ 尼崎博正、慶雲館と植治、『庭園学講座 13 名勝と文化的景観』、pp.66-70、2006、査読なし
- ⑬ 尼崎博正、成田美術館と安藤家の庭園、『庭園学講座 13 名勝と文化的景観』、pp.105-109、2006、査読なし
- ⑭ 小川後楽、煎茶と竹工芸、『週刊 人間国宝』、14 号、pp.10-11、2006、査読なし
- ⑮ 小川後楽、煎茶における伝統と創造、『京文芸』、99 号、pp.3-5、2006、査読なし
- ⑯ 小川後楽、高遊外壳茶翁『梅山種茶譜略』訳・解説、『茶文化学術情報誌 茶文化』、6 号、pp.68-79、2006、査読なし

[学会発表] (計 3 件)

- ① 矢ヶ崎善太郎、大札参列者の宿舎に選定された邸宅の準備状況と大工の動向およびその遺構、2008 年度日本建築学会近畿支部研究報告会、2008 年 6 月 21 日、大阪工業技術専門学校
- ② 矢ヶ崎善太郎、伊予の大工・中野寅雄の事績について—大洲市博物館蔵「中野家資料」を通して、2007 年日本建築学会大会学術講演会、2007 年 8 月 30 日、福岡大学
- ③ 矢ヶ崎善太郎、島根県津和野町旧畑ヶ迫村における鉦山師・堀家の建築の動向と大工について、2007 年日本建築学会近畿支部研究報告会、2007 年 6 月 17 日、大阪工業技術専門学校

[図書] (計 3 件)

- ① 尼崎博正、小川後楽、麓和義、『大分県指定有形文化財 草野家住宅新座敷 (床の間・湯殿・便所) 保存修理に伴う報告書』草野家住宅保存修理委員会、84 頁、2009
- ② 尼崎博正、矢ヶ崎善太郎、『對龍山荘—植治と島藤の技』淡交社、223 頁、2007
- ③ 麓和義、ほか (日本産業技術史学会) 『日本産業技術史事典』、思文閣出版、2007

[産業財産権]

- 出願状況 (計 0 件)

○取得状況（計0件）

〔その他〕

6. 研究組織

(1) 研究代表者

尼崎 博正 (AMASAKI HIROMASA)
京都造形芸術大学・芸術学部・教授
研究者番号：50141502

(2) 研究分担者

小川 後楽 (OGAWA KORAKU)
京都造形芸術大学・芸術学部・教授
研究者番号：50351359

麓 和義 (FUMOTO KAZUYOSHI)
名古屋工業大学・大学院工学研究科
・教授
研究者番号：80238659

矢ヶ崎 善太郎 (YAGASAKI ZENTARO)
京都工芸繊維大学・大学院工芸科学研究科
・準教授
研究者番号：90314301

(3) 連携研究者

なし